



2025 年 12 月 1 日

サッポロホールディングス株式会社

TS ネットワーク株式会社

NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社

**サッポログループ、TS ネットワーク、日本通運の 3 社が連携し、
岡山～千葉、東京～岡山間における鉄道を活用した共同輸送を開始**

サッポロホールディングス株式会社のグループ企業であるサッポログループ物流株式会社（社長：服部祐樹 以下、サッポログループ物流）、TS ネットワーク株式会社（社長：新谷裕 以下、TS ネットワーク）、NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社のグループ会社である日本通運株式会社（社長 竹添進二郎 以下、日本通運）の 3 社は、安定した輸送力の確保と環境負荷低減を目的に、31 フィートコンテナを活用した鉄道による共同輸送を 2025 年 12 月より開始します。



（輸送の様子）

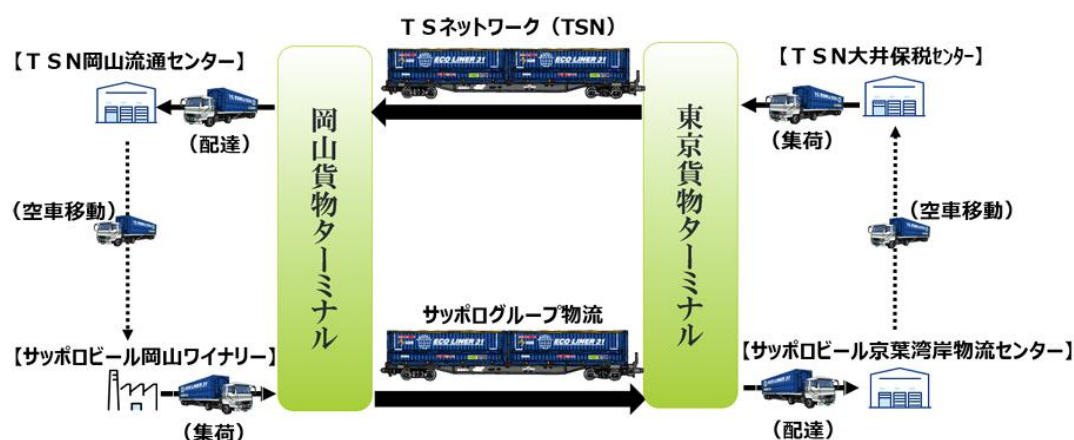
■背景

サッポログループ物流は岡山～千葉、TS ネットワークは東京～岡山間で長距離トラック輸送を行っていましたが、全国的なドライバー不足や CO₂排出量削減の必要性といった共通課題を抱えていました。日本通運は、顧客マッチングの知見を活用し、両社の輸送需要を組み合わせることで、3 社による効率的な鉄道ラウンド輸送スキームを構築しました。

■取り組み概要

本スキームでは、サッポログループ物流がサッポロビール岡山ワイナリーからサッポロビール京葉湾岸物流センター（千葉）へ輸送する製品と、TS ネットワークが大井保税センター（東京）から岡山流通センターへ輸送する製品を、31 フィートコンテナにて、鉄道でラウンド輸送します。

これにより、往路・復路ともに積載率を高め、空コンテナ回送を削減。鉄道輸送へのモーダルシフトにより、安定的な輸送能力の確保と環境負荷低減を両立します。



■効果

- ・トラック不足対策およびBCP強化

長距離区間を鉄道輸送に置き換えることで、ドライバーの拘束時間を年間約1,400時間短縮し、将来的な人員不足リスクに備えるとともに、輸送モードの複線化による安定供給（BCP^{*1}）を実現します。

- ・輸送効率化

異業種間でのラウンド輸送により、往復の積載効率を向上させ、空回送を削減。輸送コストと資源の有効活用を促進します。

- ・CO₂排出量削減

トラック輸送（約678km）から鉄道輸送への切り替えにより、1運行あたり両社で約1,167kg（削減率76.9%）のCO₂排出量を削減。年間では約168tの削減効果を見込んでいます^{*2}。

■今後について

3社は今回の取り組みを継続的な協業の第一歩と位置づけ、将来のトラック不足や自然災害などの物流課題に対応するため、定期的な協議を行いながら持続可能な輸送ネットワークの構築を進めてまいります。

^{*1}： Business Continuity Planning、災害などの緊急事態における企業や団体の事業継続計画

^{*2}： NXグループのCO₂排出量可視化ツール、「エコトランス・ナビ Ver2」による試算